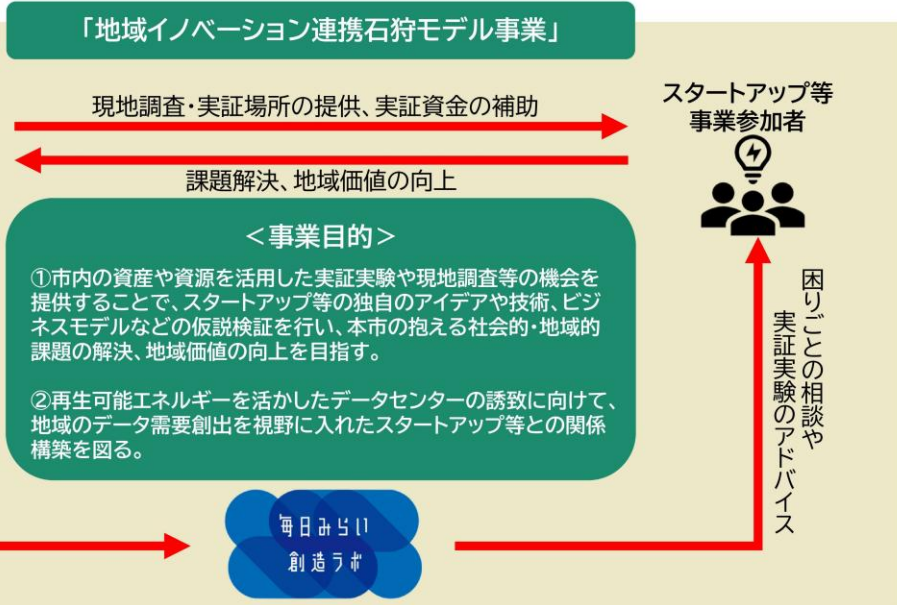
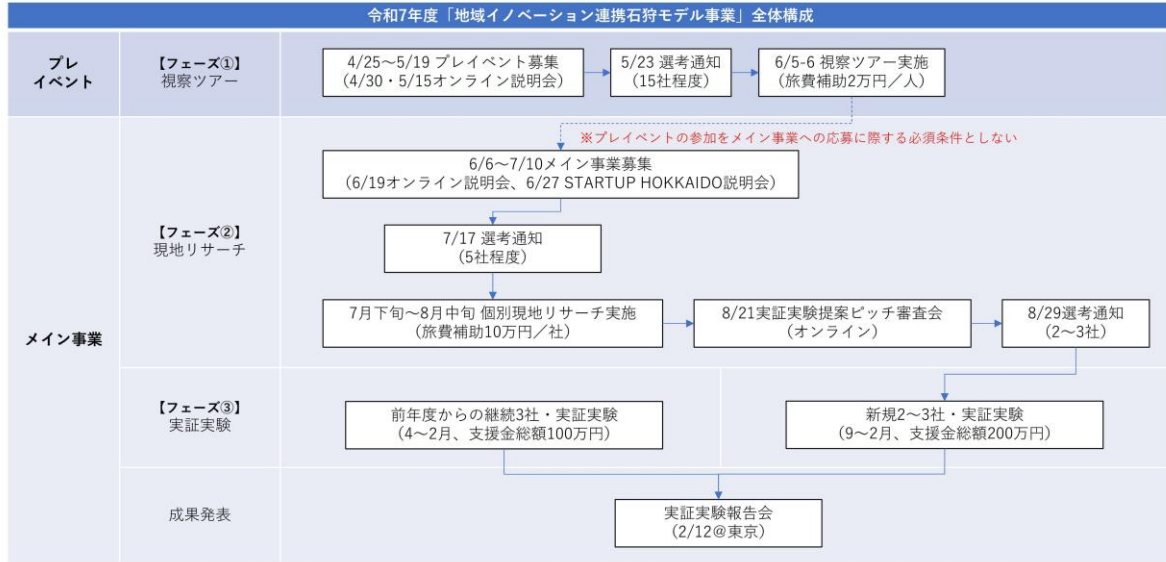


1. 事業の目的と事業構成

【事業目的】



【事業構成】



2. プレイベント「視察ツアー」の開催

※募集期間は令和7年4月25日～5月19日

【募集方法】

「視察ツアー」の募集は以下の方法で行った。

- 市ホームページでの周知のほか、毎日みらい創造ラボのHP内にランディングページを開設
- FacebookなどSNS広告を活用して拡散
- 毎日みらい創造ラボのコミュニティ約650人に一斉メール配信
- 毎日みらい創造ラボからスタートアップへ直接呼びかけ
- 石狩市からSTARTUP HOKKAIDOを介して告知
- オンライン事業説明会を実施(4月30日、5月15日)

事業説明会では、担当課長より石狩市の特長や地域課題事例を紹介。加えて、昨年度の採択社である幸海ヒーローズ合同会社の富本代表に、昨年度取り組んだ実証実験の内容について報告してもらった。計2回の事前説明会には延べ30人程度が参加している。



【参加企業】

※丸数字はエントリー順、商号省略

順位	会社名	所在地	事業内容
①	よびもり	北海道札幌市	海難事故発生時に、SOS発信端末とアプリで、同じ組合の漁師や最も近くにいる別のユーザーに救助要請ができるサービス
②	KUROFUNO	愛知県名古屋	「KUROFUNO PASSPORT」アプリを使った外国人の特定技能労働者の支援を行うサービス
③	北海道科学大学・今野研究室	北海道札幌市	ブルーカーボン推進を目的とした藻場造成ブロックの開発(対象藻類：コンブ)
④	CarbonNest	東京都文京区	Direct Air Capture (DAC) 技術にAI/IoT技術を組み合わせ、低コストかつ拡張性の高いCO2除去ソリューションの開発
⑤	日本ドローン海岸漂着ごみ回収事業推進協会	鳥取県倉吉市	ドローン空撮による漂着ごみの分布や組成調査及び、大型運搬ドローンによる海岸漂着ごみの搬出
⑥	善興社	東京都江東区	一般・産業廃棄物収集運搬、各種清掃、建設工事(土木・とび土工、機械器具設置、水道施設)、水処理設備設計・施工
⑦	HokkaiGo	北海道札幌市	交通アクセシビリティ向上のためのNFCカードを用いた予約・決済ソリューション
⑧	AGRI-PASS	京都府京田辺市	農業請負システム「アグリコ」(労務管理代行、労働力供給、作業指導の代行)の開発運用
⑨	fabula	東京都大田区	100%食品廃棄物からつくる新素材の研究開発及び、プロダクトや建材などの製造、販売
⑩	エゾウィン	北海道標津町	中～大規模組織向けの可視化・効率化システム「Reposaku(レポサク)」の開発・提供
⑪	アルバトロス・テクノロジー	東京都中央区	1. 再生可能エネルギーシステムの製造、販売 2. ウィンドファームの部分所有権による電力事業への参画
⑫	SenseDrive	東京都港区	企業の魅力体験イベントの企画運営(オープンカンパニー、インターンシップ)、スタートアップ支援など
⑬	発ジャパン	東京都八王子市	地域企業の新規事業創出と成長支援(グローバルマーケティング支援、各種連携支援・ネットワーク創出)
⑭	伸栄プラスチック	東京都八王子市	静電植毛加工(フロッキー加工)を中心とした表面処理技術により、製品に独自の質感や機能性を付加する専門企業
⑮	BLUABLE	兵庫県宝塚市	藻場創生キットの開発・提供、ブルーカーボンクレジット制度の設計支援、「企業の海森」プロジェクトなど教育・体験プログラム

【視察ツアー内容】

DAY1:6月5日(木) 石狩地区

市役所集合、オリエンテーション⇒データセンター、洋上風力発電⇒本町地区(石狩発祥の地)⇒はまなすの丘公園・ビジターセンター⇒市民図書館(交通施策について)⇒懇親会



DAY2:6月6日(金) 厚田・浜益地区

市役所集合⇒きむら果樹園(浜益区)⇒浜益コミュニティセンター(浜益区の現状について)⇒厚田産業⇒モリシゲファーム、cocoro dairy farm(厚田区)⇒終了・解散



3. メイン事業の募集及び一次選考 ※募集期間は令和7年6月9日～7月10日

【募集方法】

応募対象は、スタートアップに限らず中小企業基本法における中小企業者も含むものとし、実証実験により創出されるデータについて、クラウドサービスを必要とする場合は、市内のデータセンターを活用することも条件とした。

エントリーシートには、理念や事業内容に加えて、導入事例(自社サービス等の実証実験、協業等)や石狩市で実施したい実証実験の具体的計画(必要なヒアリング先や協業先候補等)を記載してもらうこととし、以下の通り募集を行った。

(1)毎日みらい創造ラボのウェブサイト内にランディングページを開設し、FacebookなどSNS広告を活用して拡散を図るとともに、毎日みらい創造ラボとつながるスタートアップなど約650人に一斉メール配信。

(2)6月19日のオンライン説明会に加えて、同27日にはSTARTUP HOKKAIDOの協力のもと、スタートアップ交流拠点「社交場ヤング」(札幌市役所19階)にて対面による事業説明会を実施。

【選考結果】

計6社の応募があった。提出されたエントリーシート及びオンライン面談により、現地リサーチに進むスタートアップ(5社程度)を決める一次選考を行った。その際に基準とした審査項目は右の通りで、結果として、以下5社を現地リサーチ実施企業として選定した。



【審査項目】

- ①本市の抱える課題解決に資すること
- ②本市にビジネスモデルの発想や技術などにおいて新たな価値を提供できること
- ③本市の持つ人的・物的資産を十分に活用できること
- ④実証実験の実施後も本市や市内企業・団体との継続的な関係性構築が見込めること
- ⑤実証実験の実現可能性と遂行能力を有すること
- ⑥実証実験や仮説検証の実施による成長可能性が見込めること

※丸数字はエントリー順、商号省略

	会社名	所在地	事業内容	応募時の実証実験計画
①	KUROFUNE (クロフネ)	愛知県名古屋市	「KUROFUNE PASSPORT」アプリを使った外国人の特定技能労働者の支援を行うサービス	外国人労働者にとって「働きやすい・住みやすい石狩市」とするため、KUROFUNE PASSPORTを活用して市内企業に必要な支援(採用支援・定着支援)を検証
②	AGRI-PASS (アグリ・パス)	京都府京田辺市	農業請負システム「アグリコ」(労務管理代行・労働力供給、作業指導の代行)の開発運用	冬季の漁業加工(ニシン)や農閑期の突発的労働に対応する送迎型の人材供給体制の実証(システムの受け皿)及び「ライダー農業」(7～9月農繁期)の検証
③	ジェイクロス	東京都渋谷区	「社内知見AI」「業界知見AI」「BPO(外部委託)サービス」からなる「X-Tech AI(仮)」の提供(建設業コンサル)	石狩市内で公共土木工事を請け負う建設会社もしくは石狩市の建設部門へ、①社内知見AI ②業界知見AIの試験導入
④	SenseDrive (センス・ドライブ)	東京都港区	企業の魅力体験イベントの企画運営(オープンカンパニー、インターンシップ)、スタートアップ支援など	市内企業の仕事の魅力を体験できるオープンカンパニー(短期イベント)の実施
⑤	fabula (ファープラ)	東京都大田区	100%食品廃棄物からつくる新素材の研究開発及び、プロダクトや建材などの製造、販売	市内の高校生を対象に石狩市内の事業所から出る廃棄物で作ったプレートを配り、素材の背景を伝える中で、石狩市の魅力や課題について意見交換

4. 現地リサーチにおける地域課題の抽出と整理

(1) KUROFUNE株式会社

【目的】

人手不足で外国人労働者を雇う石狩湾新港地域の企業において、そもそも人が採用できないのか or 採用した人が辞めてしまうのか、その理由は何なのかを明らかにする。

【対象】漁業、自動車整備業、飲食品料製造業

【ヒアリング結果】

- ・管理費が高くても付き合いがあるので監理団体を変えるのは難しい
- ・企業側で自転車提供やお米券配布などをして人材流出を防いでいる
- ・外国人向けのイベント情報が少なく、マンネリ化であり参加しない

【抽出された課題】

通院等の会社外でのサポートやレクリエーション提供は監理団任せにできず、企業側が様々な工夫や努力をしているが、負担は大きい。

(2) 株式会社AGRI-PASS

【目的】

農・漁業における労働力の需給状況や現行の人材確保手段を聞くとともに、請負業を担うパートナー候補を探すことで、労働力不足を解消するマッチングプラットフォームの実装可能性を検証する。

【対象】農業関係者(JAなど)、漁業関係者

【ヒアリング結果】

- ・JAさっぽろ石狩八幡支店ではアルバイト無料紹介事業を実施しているが、JA側の負担が大きい上に労働力需要を満たせてはいない
- ・農作業請負業を担う候補として、建機レンタル会社をご紹介いただく

【抽出された課題】

農機の運転が前提となると一般的な求人媒体では集まらず、JA八幡支店が独自で事業展開しているが、JA側の人手不足も課題である。

(3) ジェイクロス株式会社

【目的】

建設会社の人材に関する課題を聞くとともに、AIを用いた業務改善に関心のある企業を見つけ、どのようなサービスがよいか検証する。一方、書類書類のチェックをする自治体側への導入可能性も探る。

【対象】建設会社(社員数50人前後、売上数億円)

【ヒアリング結果】

- ・施工計画書はAIに任せて、余った時間を創意工夫にまわせるとよい
- ・過去のデータは全部ハードウェアにあるが、膨大で整理されていない
- ・人手不足による作業量を補填するため、ICTを導入している

【抽出された課題】

新人教育や施工計画書作成の業務効率化などの課題感はあるが、AIが何ができて、どう活用すればよいかまで理解が及んでいない。

(4) SenseDrive株式会社

【目的】

採用難や人手不足という課題を抱える地元企業にも特有の魅力があり、仕事の魅力をオープンカンパニー(短期)やインターンシップ(長期)で外部に届けるべく、さらなる地元企業の実態把握を図る。

【対象】観光・レジャー、食品加工、製造業等

【ヒアリング結果】

- ・一般的な採用媒体や自社HPで募集をかけても集まらない
- ・地域の中でもあまり自社のことが知られていない
- ・新港地域内で他にどんな企業があるのかを知る機会がない

【抽出された課題】

企業の魅力の抽出、可視化ができていないため、一般的な採用媒体や就職説明会で募集を呼びかけても人が集まらない。

(5) fabula株式会社

【目的】

市内で排出された廃棄物を価値のあるものにアップサイクルさせることで若者に石狩市への愛着を持たせるべく、石狩らしい廃棄物にはどんなものがあり、廃棄物に関してどのような課題があるのかを探る。

【対象】農・林業関係者、市担当課、高校・大学

【ヒアリング結果】

- ・農業残渣の飼料化や木材を活用したバイオマス発電などの事例がある
- ・ある農業団体で、委託先の破砕機老朽化で堆肥にできなくなった大量の廃棄カボチャの処理に困っているという

【抽出された課題】

農業残渣の飼料化などのリサイクルは進んでいるものの、新港地域への企業進出とともに事業系ごみが増加している。

5. 実証実験ピッチ選考会(二次選考) ※令和7年8月21日、オンラインにて実施

【審査項目】

- ①本市の抱える課題解決に資するか
- ②本市にビジネスモデルの発想や技術などにおいて新たな価値を提供できるか
- ③本市の持つ人的・物的資産を十分に活用できる内容か
- ④実証実験の実施後も本市や市内企業・団体との継続的な関係性構築が見込めるか
- ⑤2026年2月までに実証実験を実行できるか、また、その遂行能力が認められるか
- ⑥実証実験が有意義な効果をもたらす、提案者の事業伸展に将来性を見込めるか

【選考結果】 ※タイトルはピッチ選考時のもの

- 1位 ジェイクロス株式会社
「AIチャットボットを用いた施工知見の資産化」
- 2位 fabula株式会社
「石狩市民でつくる未利用資源の新しい価値化」

【審査員】

- ・伊東 将志氏(一般社団法人つちからみのれfounder)
- ・石狩商工会議所 専務理事
- ・石狩市 企画政策部長
- ・石狩市 企画政策部 企業連携推進課長
- ・各所管職員(石狩市)
KUROFUNO = 企画政策部 秘書広報課長
AGRI-PASS = 産業振興部 農政課主査
ジェイクロス = 建設部 建設総務課長
SenseDrive = 産業振興部長
fabula = 環境市民部 ごみ・リサイクル課長

【審査総括】

「ジェイクロス」は、本事業の目的にあるデータ活用を伴う地域DXに関する内容で審査員一様に評価が高かった。「fabula」は現地リサーチで取り組むべき具体的な課題を見出したことにより、実証実験の実現性と市内企業との連携可能性に期待の持てるものとなった。

6. 実証実験及び伴走支援

(1) 継続-① 株式会社JOYCLE/「熱分解装置(JOYCLE BOX)の実証実験」

【解決しようとした課題】

南北約70kmの石狩市には、ごみ処理場は1か所しかなく、長距離運搬による環境負荷やドライバー不足が深刻化。また、人口減少に伴う過疎地域のごみ処理コストは増加傾向にある。

【解決方法と昨年度の実証内容】

ごみを選ばず、燃やさず、資源化する小型の熱分解処理装置「JOYCLE BOX」を分散設置することで、持続可能なごみ処理システムを構築する。昨年度はごみ収集車の走行実態や収集量等を把握することで、「JOYCLE BOX」に置き換えた場合のESG貢献インパクト(削減できるCO2排出量や運搬コスト等)を算出した。

【実証実験の内容】

- 石狩市学校給食センターで排出される生ごみ等を対象に、寒冷地における「JOYCLE BOX」の処理能力と電力消費量などを測定する。
- 期間: 令和8年1月19日～23日
 - 場所: 早来工営株式会社 札幌工場(屋内/最低気温0.5℃)
 - 合計投入量: 122.49kg
 - 1回目: 一般ごみ 19.22kgを投入
 - 2回目: 一般ごみ 20.55kg、生ごみ 24.25kgを混合投入
 - 3回目: 一般ごみ 20.97kg、生ごみ 37.5kgを混合投入

【実証結果】

寒冷地において、含水率の高い生ごみを含む廃棄物の減容率99.8%が実現できた。さらに、運用上の注意点として、投入順序(一般ごみを下層、生ごみを上層に配置すること)と、生ごみの小分け化(袋にかかる荷重や投入時の衝撃を低減し、破損リスクを抑制すること)が処理効率に大きく影響することが明らかとなった。



【今回生じた課題】

石狩特有の暴風雪や建築基準法上の問題から「JOYCLE BOX」の設置場所については二転三転した。また、寒冷地では、電力消費量が通常の20倍程度増加することが分かった。将来的には使用する電力を太陽光パネルによる再生可能エネルギーで賄い、電力使用量ゼロを目指しており、更なる改良に期待がかかる。

【今後の展望】

戸別集配が行われている石狩市においては、家庭系ごみよりも、公共施設や病院などへの導入が実装への近道と言える。

(1) 継続-② エレックス工業株式会社/「マイクロ波計測技術を用いた不審船検知システム構築 ～ドローンによる夜間撮像実証実験～」

【解決しようとした課題】

漁業関係者にとって「密漁」は非常に大きな悩みの種である。漁業資源を奪われることによる収入減少という経済損失と、密漁への危惧から養殖事業の実施が先送り状態となっており、将来の事業機会損失にまで影響を及ぼしている。

【解決方法と昨年度の実証内容】

JAXAの新しいマイクロ波計測技術(SAMURAI)で自然界の微弱な電波と人工電波を識別することで、暗闇でも不審船を探知し、密漁を防止する。昨年度は、世界初の取り組みとしてSAMURAIを用いて、夜間における密漁船に見立てた船舶の検出に成功した。

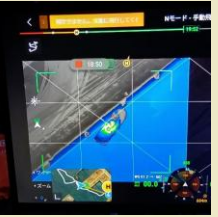
【実証実験の内容】

今期は不審船検知以降のシステム構築を模索する。令和8年1月19日の日没後、石狩湾新港内に模擬不審船を出船させ、協力先のFlyers社が操縦するドローンに付けたサーモカメラ(熱画像カメラ)で撮像。後日撮影データを北海道警察(道警)および小樽海上保安部(海保)に見てもらい、有用性を検証する。



【実証結果】

真っ暗な状態においても、ドローンの羽音が聞こえなくなる40～50m上空からでも人の動く様子を確認することができた。ただし、撮影データを見た道警や海保からは、何を獲ったかまで確認できないと密漁船として逮捕することは難しいとの意見が出た。



【今回生じた課題】

不審者が何を獲ったかまでは判別ができない点と、手動ドローンではバッテリーが40分しか保たない点が課題となった。また、今回はサーモカメラを使用したのが、赤外線カメラを使用した場合にどのように撮像できるのかは今後の検証課題の一つである。

【今後の展望】

現状では即時対応システムというより、定期的な撮影パトロールによるデータ提供や、関係者と連携した訓練による抑止効果の創出が現実的な活用策だと思われる。一方で、マイクロ波計測機のさらなる精度向上も期待される。

(1) 継続-③ 幸海ヒーローズ合同会社/「世界が石狩市浜益産コンブに恋するミライをつくる ～シーズン2～」

【解決しようとした課題】

気候変動による海中環境の悪化で漁獲量が減少し、人口減少・流出による後継者不足も重なって漁業の衰退が危惧されている。漁業資源の維持や漁業従事者の経済的安定を図るため、持続可能な漁業振興策を検討している。

【解決方法と昨年度の実証内容】

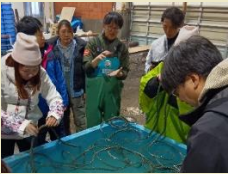
コンブ養殖を行い、磯焼けの解消とブルーカーボンによる漁業従事者の副収入を確保。さらに、地元事業者とコンブの新商品を開発して、地域経済の活性化を図る。昨年度は、浜益地区にてコンブの養殖を試み、4ヶ月間(12～3月)で長さ4mまで成長することが分かった。

【実証実験の内容】

- 「養殖エリアの拡大」(①～③)と「商品開発」(④～⑦)に関する検証を進める。
- ① 浜益地区での継続養殖と厚田地区での新規養殖
 - ② ブルーカーボン調査
 - ③ GX人材育成プログラムの実施(アデコ社との連携)
 - ④ 昨年度の実証コンブ水揚げ&朝市での試験販売
 - ⑤ コンブの乾燥作業における福祉施設との協業(漁福連携)
 - ⑥ コンブを使った商品開発(食用)
 - ⑦ コンブを使った商品開発(非食用/サーモンの餌など)

【実証結果】

浜益地区での種付け量を増やしつつ、新たに厚田地区でも漁師の協力のもとでコンブ養殖を開始することができた。人材紹介会社(アデコ株式会社)と構想を練っていたGX人材育成プログラムを実現させ、4社10数名が参加。商品開発では、食用・非食用とも、協業に好意的な企業と出会えたが、現状では乾燥コンブがないことから試作の段階まで進むことができなかった。



【今回生じた課題】

コンブ養殖の拡大は実現できた一方、商品開発の実証までは至らなかった。協業先の目処はつきつつあるが、食用も非食用(餌)も乾燥作業を経てからの提供となるため、作業所の確保、働き手となるメンバーの確保が今後の課題である。また、昨年度育ったコンブの半分をブルーカーボン用に刈り残しを試みたが、9月にはほとんど残っていない状態となり、コンブの生育維持も、今後の課題として挙げられる。

【今後の展望】

3漁港(浜益・厚田・石狩)一体でのブルーカーボン事業や、養殖コンブを餌としたウニやアワビの陸上養殖も視野に入れる。

(2)新規-① ジェイクロス株式会社/「施工知見を企業資産に。施工計画書×AI コースケースの効果検証」

【解決しようとした課題】

インフラ老朽化に伴う需要拡大と人手不足による供給能力低下で、建設会社は逼迫している。採用と定着、人材育成の難しさという課題を抱えており、要因の一つに、昼は現場、夜はアナログな書類作業という「業務プロセスの非効率」がある。

【課題の解決方法】

当初は社内知見と業界知見という2種類のAIチャットボットを開発することで、施工知見を資産化し、形式知へ転換するアプローチを想定していたが、最新の汎用AIを活用して、AIを使いこなすことで、実務支援(業務の効率化)を目指す。

【実証実験の内容】

施工計画書の「作成支援」と「チェック支援」の2つにおける顧客受容性(実務で使えるか)と時間価値(どれだけの時間を削減できるか)を検証する。

<作成支援>

建設会社の過去施工計画書や北海道土木工事共通仕様書を令和7年11~12月にかけてAIに学習させ、架空の工事案件に対してAIに施工計画書の草案を生成。その精度を検証。

<チェック支援>

仕様書等を学習したAIに、建設会社の過去施工計画書のレビューを作らせ、石狩市建設部都市整備課の評価を得る。

【実証結果】

「作成支援」は、作成時間が従来の89時間から13時間へと短縮し、工数削減効果が85%と目標の50%を大きく上回る結果となった。ただし、一般論になりがちで現場固有の条件(土質・近隣状況等)を考慮するまでには至らず、施工方法は経験に基づいて追記・修正する必要があることが分かった。

「チェック支援」における発注者(石狩市都市整備課)の評価は20点満点中13点で、チェックに要する時間は従来の180分から45分に短縮された(基準書のページ数がレビューに記載されることから根拠確認に要する時間が短縮できる等)。ただし、修正不要な箇所への過剰指摘も見られ、精度については改善の余地がある。

【今回生じた課題】

実証への協力企業を募ったが応募はなく、地元の建設会社におけるAI活用への関心の低さが浮き彫りとなった。AI活用は大幅な工数(時間)削減につながる事が証明されたものの、現場固有の条件の反映や、工程表・組織図といった文章作成以外の項目は、さらなる精度の向上が求められる。

【今後の展望】

今回の結果を広く周知し、関心を寄せる地元企業を増やしていくことで、学習材料の増加と精度向上につなげたい。

7. 成果報告会の開催

成果報告会は、令和8年2月12日、毎日新聞東京本社・毎日ホールで毎日みらい創造ラボが主催する「第11回デモデイ」の中で実施し、新規・継続の全5社が登壇した。会場にはベンチャーキャピタルや大企業の新規事業担当者など約50人が参加したほか、オンラインでも常時40~50人程が報告会を視聴した。終了後の懇親会では、登壇者と観覧者との交流も行われた。



加藤企業連携推進課長による説明



加藤市長による講評



会場の観覧者



幸海ヒーローズ・富本氏



エレックス工業・下氏



JOYCLE・小柳氏



fabula・白石氏



ジェイクロス・富田氏(オンライン)

(2)新規-② fabula株式会社/「石狩市内のゴミから新しい産業を ~廃棄カボチャに新たな価値を吹き込む~」

【解決しようとした課題】

石狩湾新港地域には約770社の企業が立地しており、石狩市の事業系ごみが年々増加している。現地ヒアリングでは、同地域に工場を持つ農業団体から、廃棄カボチャの処分課題を抱えているという。

【課題の解決方法】

食品廃棄物を乾燥粉砕後、独自の技術で熱圧縮成形することで、100%食品廃棄物由来のプロダクトにアップサイクルさせる。石狩市で排出される廃棄カボチャを活用して価値あるプロダクトを生み出し、新たな産業を創出。人材流出を防ぐとともに、石狩市のシビックプライドを醸成する。

【実証実験の内容】

以下の工程で直径90mmのコスターを80枚製作する。

- ①原料調達:農業団体から廃棄カボチャ100kgをご提供いただく(2025年11月末)
- ②破碎:スライサーを使用して薄くスライス(同年12月)
- ③乾燥・粉末化~成形~塗装:自社サプライチェーンを活用(26年1~2月)



【実証結果】

廃棄カボチャの素材化検証は成功し、カボチャらしい鮮やかな黄土色のコスターが完成した。

今回の実証では、原料がカボチャであったため、従来にはない「破碎」という工程が必要となった。自社ではカボチャを破碎する機械は所有しておらず、スライサーで実行。サプライチェーンを構築する際の投資費用を抑えられる可能性を見出すことができた。



【今回生じた課題】

コスターが完成したところで終了となったが、協業の可能性まで議論できると理想的であった。議論にあたって、量産化に伴う輸送コストの増加と採算性は大きな課題となる。策としては、製造工程をできる限り石狩市内で行うことで、市内でカボチャの粉砕・乾燥・粉末化・成形・塗装という工程を委託できる協業先を見つけることも今後の課題である。

【今後の展望】

大企業がスタートアップの技術を導入して課題解決を図る「ベンチャークライアントモデル」の事例として期待がかかる。

8. まとめ・振り返り

今年度は、実証実験の希望を問わずに石狩市の実情を知ってもらう旅費補助付きの「視察ツアー」をイベントとして実施し、当初の目標15社を満了参加があった。実証実験フェーズへの応募に至らなくても、別途、石狩市の担当部署とやりとりを継続するスタートアップも見られ、複層的なスタートアップとのつながりが、今後の石狩市の財産になっていくことは間違いない。1泊2日の行程はかなりタイトだったため、訪問先を絞るかわりに、各社のヒアリング時間を十分に設けたり、スタートアップ同士で課題解決に向けて意見を出し合うワークショップを実施したりできると、さらに実のある機会になったと思われる。

実証実験に向けた現地リサーチは、各社からの要望に応じて日程やヒアリング先を個別に調整するほか、リサーチから実証実験の提案ピッチまで準備期間を設けることで、提案の精度向上を図った。結果として、漠然としていた実証実験の対象が現地ヒアリングで明確となり、実証内容も石狩市の課題解決に直結する形へと方向転換が図られて、実証実験に採択されたスタートアップもあり、直接現地の課題感を聞くことの意義を改めて示したと言える。

実証実験については、5社(継続3社+新規2社)いずれも東京が拠点のため、頻繁に石狩市を訪れることができず、実証実験における協力者や自治体の担当部署との関係構築に苦心した。スタートアップの中には、資金的な支援よりも、地域事業者との信頼構築や、地元事業者の意識変容に向けた人的サポートを欲しているケースもあり、地域への実装に向けては大変重要なポイントと思われる。昨今、スタートアップの実証実験を支援する自治体が増えており、差別化要素としては資金額も一要素であるが、ハンズオン型の手厚いサポートも大きな武器になるはずだ。

最後に、今年度の実証は昨年度に比べて、地元事業者を協力者として巻き込むケースが増えたが、スタートアップがやりたいことを手伝うという意識が地元事業者には強かったように感じる。しかしながら、本事業の目的は「地元事業者がスタートアップを助ける」ことではなく、「スタートアップが地域の課題(地元事業者)を解決する(助ける)」ことにある。本事業の成功の鍵は、地元事業者が当事者意識を持つこと(意識を変容させること)にある。そのためには、自治体職員とともに伴走支援者が、事業意義の理解促進を図るべく、より地元事業者に入り込んでいく必要があると考える。